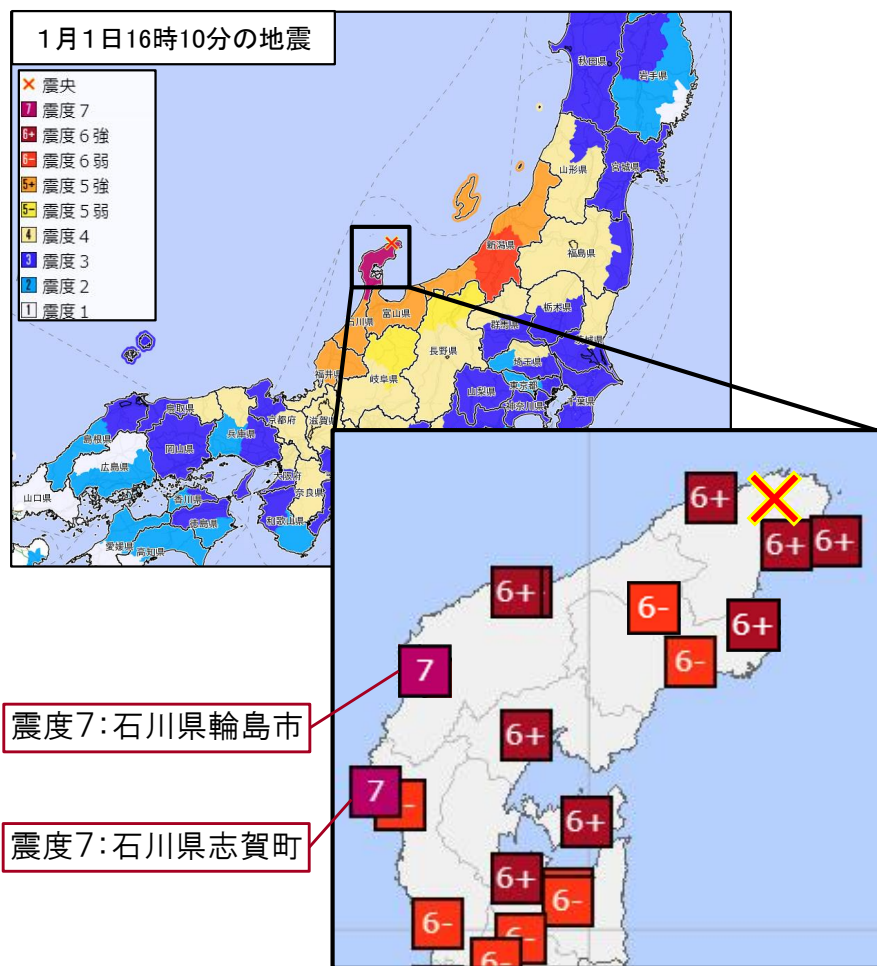


令和6年能登半島地震の概況 について

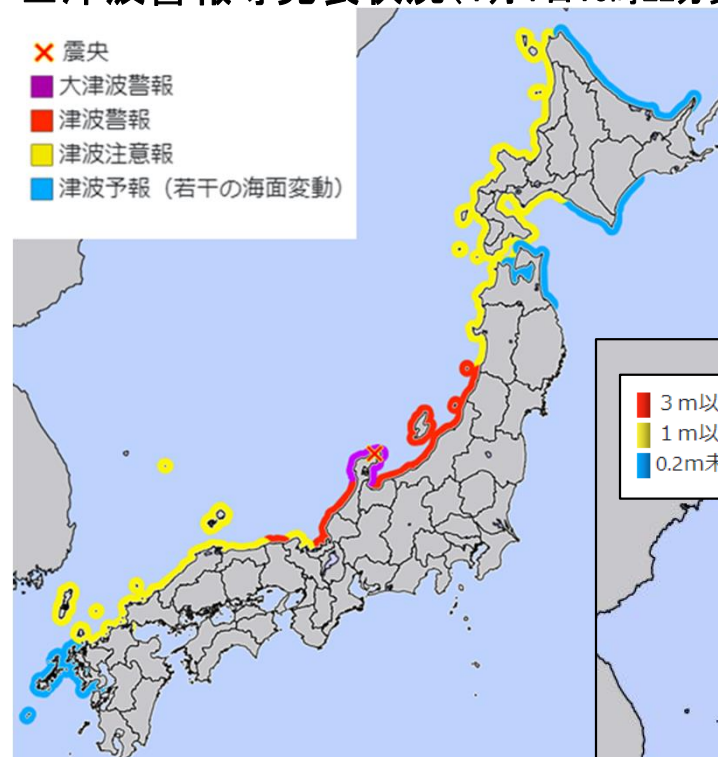
「令和6年能登半島地震」の概要（令和6年1月1日16時10分の地震）

- 令和6年(2024年)1月1日16時10分にマグニチュード7.6、深さ16kmの地震が発生し、石川県輪島市(わじまし)、志賀町(しかまち)で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測。
- この地震により石川県能登に対して大津波警報を、山形県から兵庫県北部を中心に津波警報を発表し、警戒を呼びかけ。
- 気象庁では、石川県能登地方で発生している令和2年(2020年)12月以降の一連の地震活動について、その名称を「令和6年能登半島地震」と定めた。

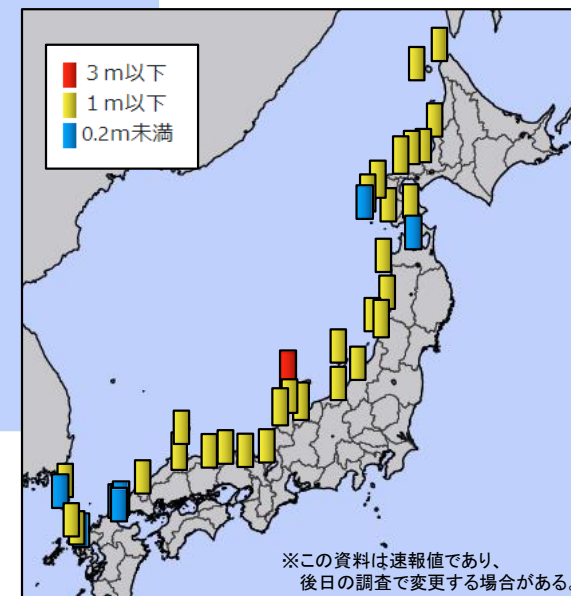
■震度分布図



■津波警報等発表状況(1月1日16時22分発表)



■津波の観測状況



「令和6年能登半島地震」の地震活動の状況(震源域等)

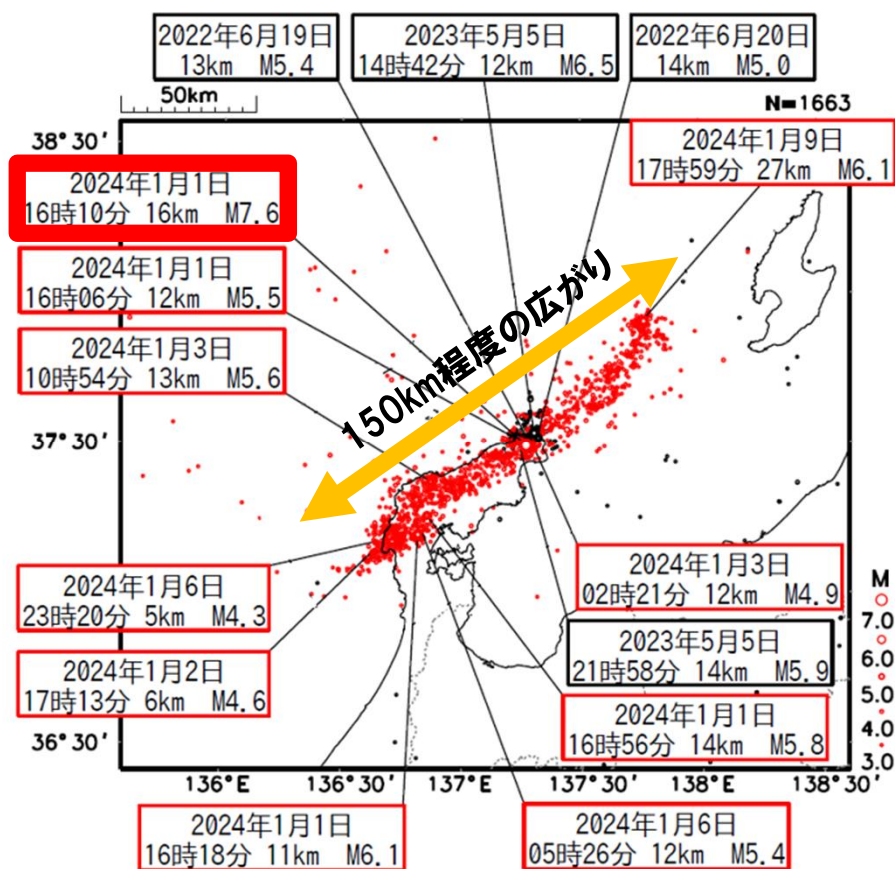
○ 政府の地震調査委員会によると、一連の地震活動は、1月1日以降、地震活動の範囲が広がっており(北東-南西に延びる150km程度の広がり)、これまでの地震活動及び地殻変動の状況を踏まえると、令和2年(2020年)12月以降の一連の地震活動は当分続くと考えられる。特に今回の活動域及びその周辺では、今後強い揺れや津波を伴う地震発生の可能性があると評価。

■ 震央分布図

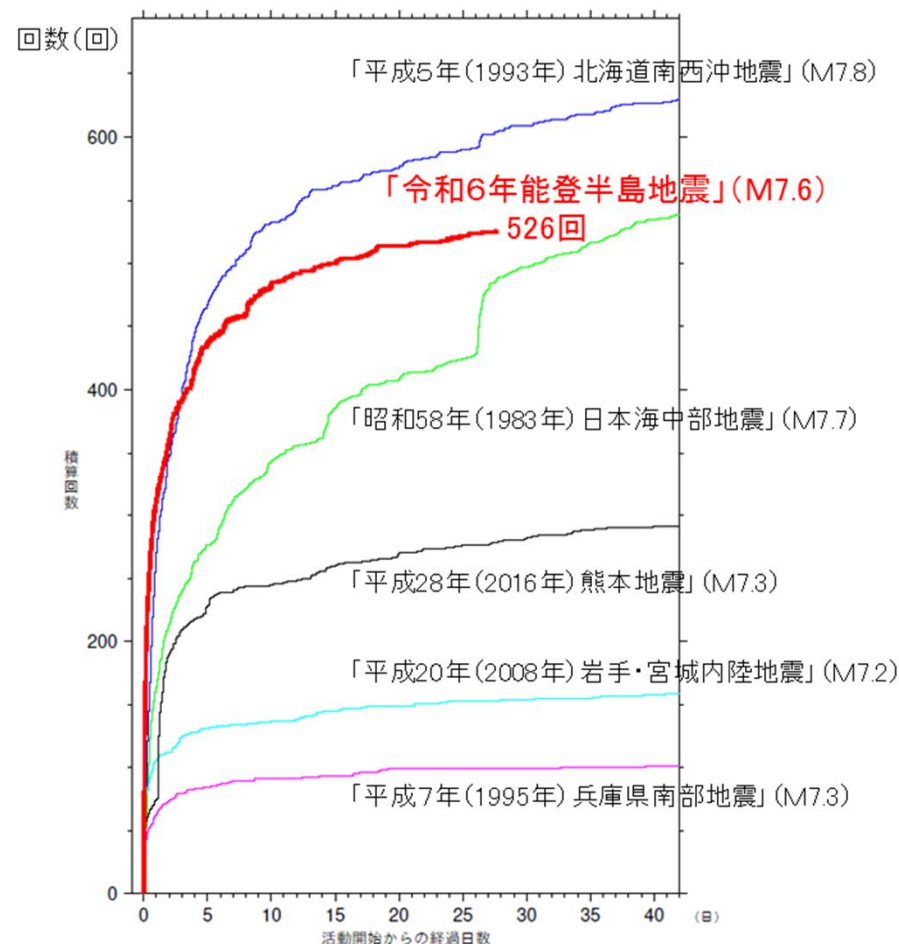
(2020年12月1日～2024年1月17日15時00分、
深さ0～30km、M3.0以上)

※2024年1月1日以降の地震を赤く表示

※吹き出しは、最大震度5強以上の地震又はM6.0以上の地震



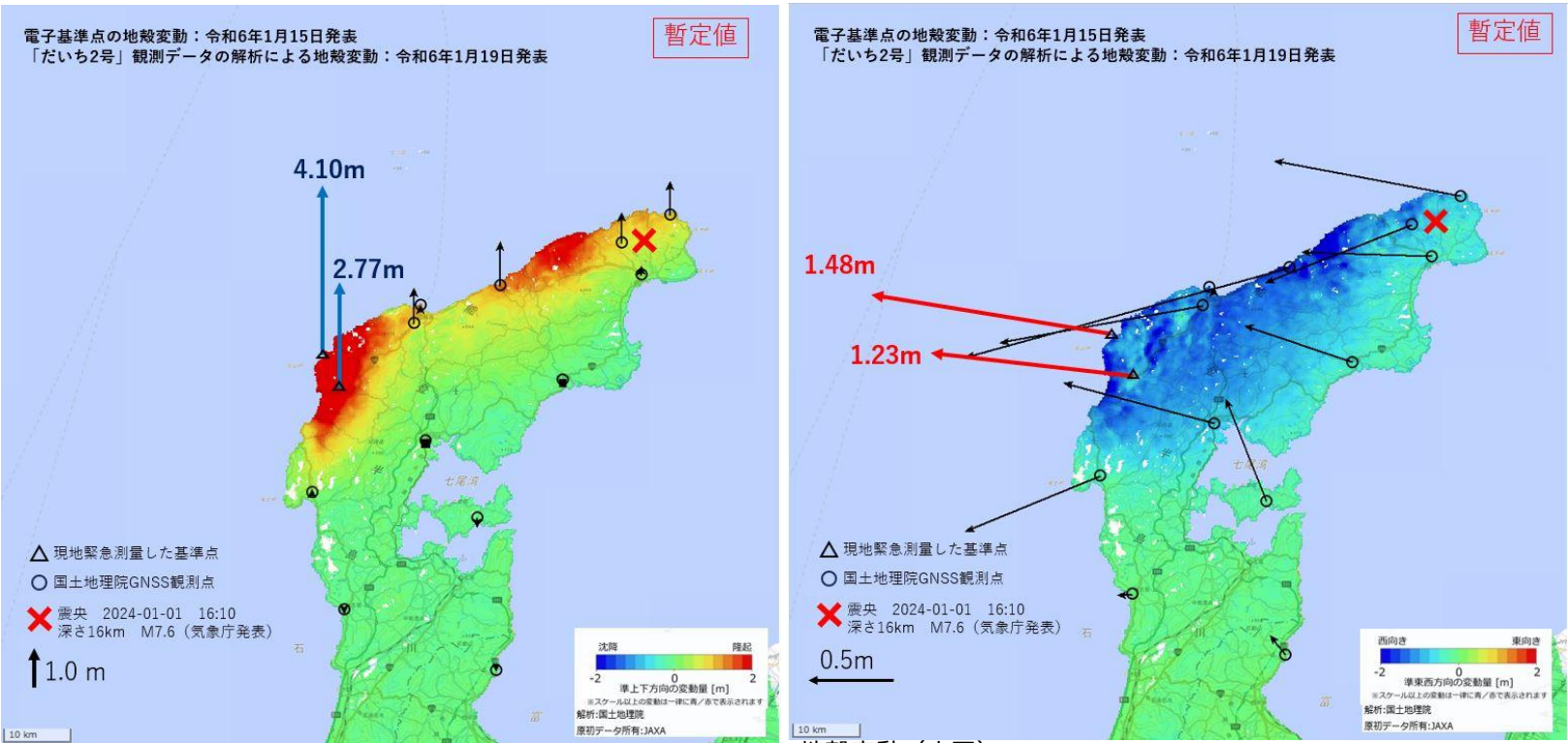
■ 陸のプレートでの主な地震活動の 地震回数比較(マグニチュード3.5以上)



令和6年能登半島地震に伴う地殻変動

- 国土地理院による「だいち2号」観測データの解析により、能登半島西部では約4 m隆起の大きな地殻変動が見られた。
- さらに現地の基準点を対象に実施した緊急測量の結果、最大で4.10mの隆起、1.48mの西向き、1.48mの西向きの水平変動が確認された。

変動ベクトル図



地殻変動（上下）

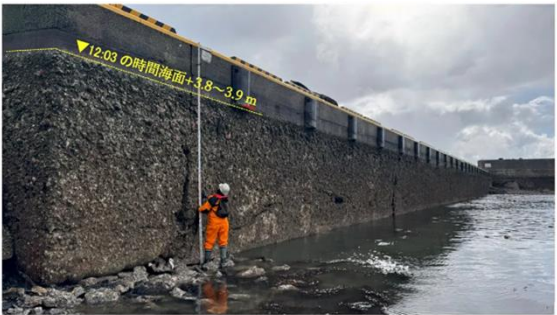
いぎす
三等三角点「五十州」（輪島市門前町五十州付近）

	上下	水平
現地緊急測量	4.10m隆起	西向きに1.48m移動
SAR（だいち2号）	約4.3m隆起	西向きに約1.5m移動

公共基準点
（輪島市門前町和田付近）

	上下	水平
現地緊急測量	2.77m隆起	西向きに1.23m移動
SAR（だいち2号）	約2.7m隆起	西向きに約1.1m移動

石川県輪島市門前町鹿磯（かいそ）周辺での海岸隆起調査



鹿磯漁港の防潮堤に固着した生物遺骸が示す隆起の様子。
人が持っている標尺の長さは5 m



隆起した波食棚前面の崖の様子（鹿磯漁港の北）

【出典】国立研究開発法人産業技術総合研究所
第四報 2024年能登半島地震の緊急調査報告
（海岸の隆起調査）

<https://www.gsj.jp/hazards/earthquake/noto2024/noto2024-04.html>

令和6年能登半島地震の地震動について

○ 防災科研K-NETの各地域の地震計の加速度応答スペクトルと「下水道施設の耐震対策指針と解説 2014年版」((公社)日本下水道協会)に示す標準加速度応答スペクトルとを重ね合わせた結果、今回の地震はL2レベル地震動又はそれ以上の地震動であったと考えられる。

